うたのすきなりゅう

全８場　初稿

たかはしいちげん

登場人（？）物

おじいさん　オカリナ
おばあさん
ミード（ネコ）　パーカッション
ウルケル（ハリネズミ）　ハモニカ
ブドバー（フクロウ）　ギター
ベヘロフカ（竜）　歌

あらすじ

ネコのメドヴィーナと釣りに出かけたおじいさんは、昼寝をしているうちに知らない湖に。おじいさんは竜のベヘロフカにつかまるが、竜の歌に合わせてオカリナを吹き、気に入られる。
メドヴィーナはハリネズミのウルケルとフクロウのブドバーとともにおじいさんを助けに行くが、失敗。ベヘロフカとおじいさんが楽しそうに演奏しているのにひかれ、そこに加わることにする。
一緒に楽しく演奏することで、気持ちが通じる。みんなでおじいさんの家に帰る。

第1場　おじいさんの家の前

音楽とともに幕が開く。
おじいさんの家。すぐ近くを川が流れていて、ボートが一艘舫ってある。
ネコのメドヴィーナが登場。

メドヴィーナ　（客席に向かって）みなさん、こんにちは。あたしはメドヴィーナ。でも、みんなはあたしのこと、ミードって呼ぶわ。

おじいさん、つり竿とバケツを持って登場。

おじいさん　おおい、ミードや。そろそろ出かけるよ。

メドヴィーナ　にゃあ。

おじいさんとメドヴィーナ、ボートに乗り込む。おばあさんが、家から出てくる。

おばあさん　おじいさん、お弁当を忘れていますよ。

おじいさん　おお、そうだった。（弁当を受け取って）じゃあ、行ってくるよ。

おばあさん　お魚をいっぱい釣ってきてくださいね。

おじいさん　はいよ。

メドヴィーナ　にゃあ。

おじいさんとメドヴィーナを乗せて、ボートは動き出す。
ボードの動きに合わせて、景色が変わっていく。

第２場　川

おじいさん　いい天気だなあ。

メドヴィーナ　にゃあ。

おじいさん　今日はたくさん釣れそうな気がするよ。

メドヴィーナ　にゃあ。

おじいさん　ミードもそう思うかい。

メドヴィーナ　にゃあ。

おじいさん　そうか、そうか。

と、つり竿を持って釣り始める。メドヴィーナはその様子を見ている。
すぐに魚が掛かるが、釣り上げようとしたところで、メドヴィーナが手を出して、バラしてしまう。

おじいさん　これこれ、あわてるんじゃないよ。

メドヴィーナ　にゃあ。

おじいさん　なんだ、お腹が空いているのか。

メドヴィーナ　にゃあ。

おじいさん　じゃあ、ちょっと早いがお弁当にするか。

メドヴィーナ　にゃあ。

おじいさん　なになに、こっちがわしので、こっちがミードのか。

と、弁当の包み（箱？それぞれの似顔絵が描いてある）を二つ出す。大きい方をメドヴィーナに渡す。

おじいさん　（手を合わせて）いただきます。

メドヴィーナ　（手を合わせて）にゃあ♡（すごい勢いで食べるが、喉に詰まらせて）にゃあ＆％＄＃！。

おじいさん　これこれ、もっとゆっくり食べなさい。

メドヴィーナ　にゃあ……（ゆっくり食べる）。

おじいさん　ああ、（手を合わせて）ごちそうさま。

メドヴィーナ　（手を合わせて）にゃあ。

おじいさん　やれやれ。気持ちいいなあ。

おじいさん、どこからともなくオカリナを出して吹き始める。

メドヴィーナ　（客席に向かって）おじいさんは、昔、町の音楽隊でトランペットを吹いていました。いまは機嫌がいいとオカリナを吹きます。

メドヴィーナ　にゃあ、にゃ、にゃ、にゃあ（オカリナに合わせて歌う）。

おじいさん　ミードは歌が上手だなあ。あーあ（あくびして）、ちょっと眠くなってきた。

メドヴィーナ　にゃあ。

と、二人はボートのなかで眠ってしまう。

（音楽）その間に、ボートはどんどん流れていって大きな

湖に。

第3場　湖上

おじいさん　（目をさまして）ふぁーあ、あれ、ここはどこだ？

メドヴィーナ　（目をさまして）にゃあ。

おじいさん　まあいいか。さて、釣りの続きを。あれ？　餌がない。

メドヴィーナ　にゃあ（ドーナツを咥えて出す）。

おじいさん　えっ、これで？　まあいいか、何が釣れるか判らんが。

と、釣り針にドーナツをつけて釣り始める。メドヴィーナもボートから身を乗り出して魚を探す。すぐにおじいさんの竿に当たりが。

おじいさん　おっ！　引いてるぞ。（ぐいぐい引いてくるので）これは大物だ！　よいしょ。

と、竿を引くがすぐ引き返される。もう一回繰り返して。

おじいさん　これは、ほんとに大物だ。ミードや、手伝っておくれ。

メドヴィーナ　にゃあ（「おおきなかぶ」のようにおじいさんの後ろにくっつく）

おじいさん　よいしょっ！（引く）

メドヴィーナ　にゃあ！

綱引きのように引いたり引かれたりの後。

おじいさん　うわあ。

ものすごい勢いで引っ張り返され、ボートは湖を引きずり回される。一際強く引っ張られ、ボートは転覆。おじいさんは水の中へ。メドヴィーナはかろうじて、ひっくり返ったボートの上に。

メドヴィーナ　おじいさーん。にゃあ。

やがて、ボートは湖岸にたどり着く。

第４場　湖岸

メドヴィーナ　どうしよう、おじいさんが湖に落ちちゃった。どうしよう。おじいさん……、にゃあ。

ハリネズミのウルケル登場。顔は見えない。

ウルケル　誰だ誰だ、べぞべそ泣いてるのは。

メドヴィーナ　泣いてなんかいないもん。

と、きょろきょろして、針だらけのかたまりを見つける。それにこわごわ触れて。

メドヴィーナ　あいたた。あなたこそ誰よ。

ウルケル　（顔を上げて）おれさまは、ウルケル。

メドヴィーナ　あたしはメドヴィーナ。みんなミードって呼ぶわ。

ウルケル　ミードか。それで、いったいどうしたんだ。

メドヴィーナ　おじいさんが、おじいさんが湖に落ちて……。

ウルケル　そりゃ、もうダメかもな。

メドヴィーナ　どうしてそんなことを言うの。ウルケルって、意地悪ね。

ウルケル　あの湖には、でっかい竜が住んでいるのさ。

メドヴィーナ　りゅう？

ウルケル　おじいさん、食べられちゃったかもな。

メドヴィーナ　そんなぁ。あーん（泣く）。

フクロウのブドバーが飛んできて、メドヴィーナの目の前に降りる。

ブドバー　どうしたんだい、ネコちゃん。

メドヴィーナ、ブドバーを怖がって、ウルケルの陰へ。

ブドバー　はっはっは。私はフクロウのブドバー。怖がらなくてもいいよ。

メドヴィーナ　あたし、メドヴィーナ。みんなミードって呼ぶわ……。ウルケルが、おじいさんは竜に食べられたって……。

ブドバー　これこれ、女の子を泣かすもんじゃない。

ウルケル　ふん、最初から泣いていたんだよぅ。

ブドバー　これこれ。おじいさんが、どうしたの。

メドヴィーナ　湖に落ちて、いなくなっちゃったの。

ブドバー　そうか。こりゃほんとにべヘロフカにさらわれたのかも。

メドヴィーナ　べヘロフカって。

ブドバー　湖に住んでいる大きな竜だよ。

ウルケル　ほら、みろ。

メドヴィーナ　あーん（泣く）。

ブドバー　（ウルケルをつついて）これ！　よし、じゃあ、一緒におじいさんを捜しに行こう。

メドヴィーナ　え？　ありがとう、ブドバー。

ブドバー　ウルケル、おまえさんも一緒に来なさい。

ウルケル　ええ？！

ブドバー　何かの役には立つだろう。

ウルケル　へいへい、お役に立ちますよう。

メドヴィーナ　ウルケルも、お願いね。

ウルケル　へいへい。

ブドバー　じゃあ、竜のすみかに出発だ！

メド・ウル　おう！

音楽とともに、三匹退場。

第5場　竜のすみか

場面換わって、べへロフカのすみか。岩に囲まれた湖岸。湖の中から咥えた釣り糸＋釣り竿におじいさんをぶら下げたべへロフカ登場。

べへロフカ　何だか変なもの食べちゃった。

おじいさん　おいおい、わしをどうするつもりだ。ミードは無事なのか。

べへロフカ　ミード？　知らないよ。それより、この変なの、取ってよう。

おじいさん　（釣り竿から手を放して着地）変なのって、これ（糸を指さす）のことかな？

べへロフカ　そうだよ。喉に引っかかってエグエグするんだ。

おじいさん　そりゃ悪かったな。どれ、口を大きく開（あ）けて。

べへロフカ　あーん。

おじいさん　（べへロフカの口の中を覗き込んで）どれどれ。

べへロフカ　（口を開けたまま）早くぅ。

おじいさん　待て待て、よいしょっと。取れた！

と、釣り針を持って口からでる。

おじいさん　まさかドーナツで竜が釣れるとはなあ。

べへロフカ　あれ、ドーナツっていうの？　おいしかったよ。

おじいさん　おばあさんの手作りだからなあ。

べへロフカ　ぼくねえ、べへロフカっていうの。おじいさん、魚釣りに来たんでしょ。ぼく、取ってあげる。

と、しっぽで水面を叩く。魚が飛び跳ねてくる。

べへロフカ　ほら。

続けて水面を叩く。ぽん、ぽん、ぽぽぽぽぽんという感じで、最後に特大の魚。

おじいさん　これは立派なマスだ。

べへロフカ　（得意そうに）えへっ。

おじいさん　ミードにも食べさせてやりたいなあ。

べへロフカ　ミードって？

おじいさん　わしのともだちのネコだよ。

べへロフカ　ともだちって？

おじいさん　いつも一緒に遊んだり、歌ったり、ごはんを食べたりする仲良しのことさ。

べへロフカ　いいなあ、仲良しか。

おじいさん　べへロフカにはともだちはいないのかな。

ベヘロフカ　ぼく、ずっと一人だよ。

おじいさん　そうか。

少ししんみりした空気になる。

ベヘロフカ　（咳払いのような）ん、ん、えへん。

おじいさん　まだ具合が悪いのかい？

ベヘロフカ　もう大丈夫。あー、あー。

おじいさん　いい声だなあ。

ベヘロフカ　えっ、そおぅ？

おじいさん　そうだとも。

ベヘロフカ　ちょっと、歌っちゃおうかな。

おじいさん　ああ、歌っておくれ。

ベヘロフカ、歌い始める。途中から、それに合わせて、おじいさんがオカリナを吹く。

ベヘロフカ　ああ、いいねえ。だれかが、そばにいるって、いいねえ。

おじいさん　そうだとも。

おじいさん、たき火を起こす。

近くの木の枝から、ブドバーが顔を出す。すぐに、バサバサと飛んで、岩へ。

ブドバー　いたぞ。

岩陰から、ウルケル、メドヴィーナが顔を出す。

ブドバー　見たか。

ウルケル　見た。

メドヴィーナ　ああ、よかった。おじいさん、食べられてなんかいないじゃないの。

ウルケル　たまたま運がよかっただけさ。このあとで食べるんだよ。

ブドバー　これ、まだそんなことを言って。

メドヴィーナ　おじいさんたら、もう、心配したんだから。（身を乗り出し、おじいさんに向かって）にゃあ！

おじいさん　（メドヴィーナに気づいて）おお、ミード。無事だったのか。

メドヴィーナ　にゃあ。

ウルケル　やい、ベヘロフカ。おじいさんを返せ！

ベヘロフカ　やだ。

ブドバー　このおじいさんはこのネコの飼い主なんだ。

ベヘロフカ　やだ！　ぼくにオカリナを吹いてくれるんだ！

メドヴィーナ　あたしのおじいさんなのよ。

ベヘロフカ　やだ！

ウルケル　ごたごた言ってると、この針をお見舞いするぞ！（体を丸めて針を立てて、ベヘロフカに体当たり）

ベヘロフカ　あいたた。

ウルケル　よーし、もう一発。

このあたりは、少々立ち回りとなる。

ベヘロフカ　なにを！（三匹に向かって火を吹く）

ウルケル　あちちち。これはまずい。

ブドバー　ひとまず退却だ。

三匹、岩陰に隠れて退場。

おじいさん　これこれ、乱暴はよしなさい。

ベヘロフカ　だって……。

おじいさん　まあ、ミードも無事だったし、よかったよ。

ベヘロフカ　おじいさん、ともだちが無事でうれしい？

おじいさん　ああうれしいよ。

ベヘロフカ　そうか……。

しばらく黙り込んで、しっぽを揺らしている。

たき火を挟んで、おじいさんとベヘロフカ座る。

ベヘロフカ　おじいさん、オカリナ吹いてよ。

おじいさん　ああ、いいとも。

おじいさん、オカリナを吹く。それに合わせてベヘロフカもハミング。やがて歌い出す。

ゆっくり舞台転換。

第６場　岩山のどこか

メドヴィーナ、ウルケル、ブドバーの三匹が岩陰から顔を出す。

ウルケル　べヘロフカが火を吹くなんて知らなかったよ。

ブドバー　何かいい作戦を考えないと。

メドヴィーナ　おじいさん、大丈夫かしら。

ウルケル　今ごろ、丸焼きかもな。

メドヴィーナ　やめて！

メドヴィーナ、大きな岩を押す。岩は転がってウルケルを追いかける。

ウルケル　（逃げながら）うわあ。たすけて。（ほうほうの体で）オレが悪かった。

メドヴィーナ　知らない。

ブドバー　これこれ、いい加減にしなさい。ん？　静かに！　何かきこえる。

メドヴィーナとウルケルも耳を澄ます。ウルケルとおじいさんの演奏がきこえる。

メドヴィーナ　おじいさんのオカリナよ。

ウルケル　歌っているのは、ベヘロフカか。

ブドバー　いい声だなあ。

メドヴィーナ　おじいさんのオカリナもすてきよ。

三匹、しばらく演奏を聴いている。

ブドバー　こういう演奏を聴いていると、一緒にやりたくなるなあ。ん、そうだ！

ウルケル　なに？

ブドバー　ウルケル、おまえさん、何か楽器はできるかい？

ウルケル　ハモニカくらいは吹けるよ。

メドヴィーナ　あたしだって、太鼓くらいは叩けるわ。

ブドバー　よし、ちょっと待ってなさい。けんかするんじゃないよ（飛び立つ）。

ウルケル　いったいどうしたんだ？

メドヴィーナ　わかんない。

ウルケル　ちぇっ、のんきなやつ。

メドヴィーナ　あなたなんて、全然役に立たなかったじゃないの。

ウルケル　なにを！（針を逆立てる）

メドヴィーナ　フーッ！（こっちも毛を逆立てる）

そこへ大きな箱を下げてブドバーが戻ってくる。

ブドバー　やっぱりけんかしてる。

メドヴィーナ　そんなことないわ。

ウルケル　ふん。

ブドバー、二人の話をまるで聞かないで、ウルケルにハモニカを、メドヴィーナに太鼓を渡し、自分はギターを持つ。

ブドバー　いいかな。これを持ってベヘロフカのところに行くんだ。

ウルケル　ええっ？　また行くの？

ブドバー　そうだ。一緒に演奏するんだよ。

メドヴィーナ　わあ、楽しそう！

ブドバー　そうさ。さ、行くよ。

ウルケル　わかったよ。参りましょう。

第7場　竜のすみか

場面変わって、再びベヘロフカのすみか。

ベヘロフカ　おじいさん、魚食べる？　僕が焼いてあげるよ。

と、串に刺した魚に火を吹く。魚、真っ黒焦げ。

ベヘロフカ　ありゃ、失敗しちゃった。

おじいさん　火が強すぎたな。

ベヘロフカ　じゃあ、もう一回。（今度は上手く焼ける）さ、おじいさん、どうぞ。

おじいさん　ありがとう。（一口かじって）おいしいよ。

ベヘロフカ　よかった。

おじいさん　ミードはどうしているかな。お腹を空かせてなきゃいいけど。

ベヘロフカ　……（軽くうなだれる）。

岩の陰から、いきなりブドバー、ウルケル、メドヴィーナが楽器を持って登場。

ウルケル　じゃーん。

ベヘロフカ　また来たのか。（おじいさんをしっぽで押さえて）おじいさんは返さないぞ。

ブドバー　いやいや、私たちは湖の音楽隊です。

おじいさん　音楽隊だって？

メドヴィーナ　今夜は二人に、音楽を聞いてもらいにやってきました。

おじいさん　まあ、聴いてみようじゃないか。

ブドバー　では、始めます。

三匹が演奏を始める。

最初は知らん顔だったベヘロフカも、だんだん音楽に乗っ

てくる。おじいさんも楽しそう。演奏が終わると、ベヘロフカもおじいさんも大拍手。

ベヘロフカ　ブラボー。

おじいさん　いい演奏だ。

ウルケル　（得意そうに）へへん。

ブドバー　では、今度は、ベヘロフカさん、歌ってください。

ベヘロフカ　ええっ？　僕が歌うの？

メドヴィーナ　そうよ。いい声じゃない。

ベヘロフカ　どうしよう。

おじいさん　さあ、歌うんだ。

メドヴィーナ　おじいさんのオカリナも一緒よ。

ベヘロフカの歌に合わせて、全員の演奏と歌が始まる。演奏に合わせて木々が揺れてたり、湖の魚が跳ねたりする。演奏が終わっても、しばらく黙ってじっとしているが、突然みんな笑い出す。

メドヴィーナ　すてきな声。

おじいさん　みんな、すばらしい。

ベヘロフカ　みんなでやるのって、楽しいねえ。

おじいさん　ああ、そうだとも。

メドヴィーナ　おじいさん！（おじいさんの胸に飛び込む）

おじいさん　ミードや（ミードを抱きしめる）。

ベヘロフカ　（ウルケルに向かって）さっきは熱かった？　ごめんね。

ウルケル　へん、気にするな。

ブドバー　よかったよかった。

ベヘロフカ　（おじいさんとメドヴィーナを見て）おじいさん、帰っていいよ。

おじいさん　ああ。

ベヘロフカ　おじいさん……。

おじいさん　そうだ。これからも、ここでこうやって演奏したいなあ。

ベヘロフカ　えっ、また来てくれるの？

おじいさん　もちろんだとも。わしらはもう、ともだちだ。

ベヘロフカ　ともだち？

おじいさん　ああ、ここに居るみんながともだちだ。なあ、ミード。

メドヴィーナ　にゃあ。そうよ。（ブドバーとウルケルに向かって）あなたもあなたも。

ウルケル　オレたちも？

ブドバー　そりゃ、そうだとも。

ベヘロフカ　いっぱいともだちができた！

おじいさん　さあ、じゃあ、そろそろ家に帰ろうか。

べへロフカ　ぼく、送っていくよ。

ウルケル　じゃあ、オレたちも。

みんなで「ともだち、ともだち」と言っているうちに音楽。ブドバー（飛んでいる）以外はみんなべへロフカに乗って、べへロフカ歩き出す。

第８場　おじいさんの家の前

再びおじいさんの家の前。
みんなを乗せたべへロフカが川を遡ってくる。

おじいさん　ここだよ。ありがとう。

メドヴィーナ　にゃあ。

おじいさん　おばあさん、いま帰ったよ。

家から、おばあさんが出てくる。

おばあさん　遅かったですね。（べへロフカを見て）きゃあ（倒れる）。

おじいさん　おばあさん、しっかり。

メドヴィーナ　にゃあ。

おばあさん　（気がついて）あら、まあ。おおせいのお客さまだこと。

おじいさん　わしの新しいともだちだよ。

おばあさん　それじゃあ、お茶の支度をしないと。

おじいさん　ドーナツも頼むよ。

ベヘロフカ　ドーナツ、ドーナツ。

メドヴィーナ　にゃあ。

エンディングの音楽。

おばあさん、いったん引っ込んでプラカード（？）を持ってすぐ出てくる。ひっくり返すと「おわり」の文字。

終幕